

新規創業者の皆さんにつきましては、国の持続化給付金は当初、創業者に対する給付はございませんでした。やっところ2次補正に来まして、それらも救えるような要件が出てきたところでございますけれども、糸魚川市につきましては、新規創業者も当初から救えるようにということで、国とは違った基準を設けまして新規創業者につきましても20万円の継続給付金を支給してきたところでございます。

今、創成塾につきましては、また今年も15人の皆さんから今現在お申し込みいただいているところでございます。この塾には、講師として専門家の方も入っておられますし、また、創業支援ネットワークということで、市や商工会議所、商工会を初め日本政策金融公庫ですとか金融機関も入っておりますので、適時適切なアドバイス、また支援をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

続きまして、4番目の糸魚川市として第2波の備えとして考えられる施策について、再度伺いたいと思います。

糸魚川市の企業存続のために第2波の備えも期待申し上げるところでございますが、コロナ禍における一連の騒動で民間企業や行政において共通してあぶり出された問題が、感染拡大が心配される施設やお店を運営できない状況下で、人件費や建物を維持管理するための固定費を確保するというところであります。私の知り合いで、ある企業の代表者のお話を伺ったところ、コロナ禍の収束に見通しが立たないために、3年間の返済の据え置く措置を行った上で2,000万もの大金の借入れを行ったと聞いております。各企業ごとに自身が責任を持って企業を守るための努力をしております。

糸魚川市はどうでしょうか。公共施設を維持するために財源を確保することには理解はできますが、維持していくために大切な税金を投入し続けなければならない事実があります。平成28年3月に改定された糸魚川市の公共施設等総合管理指針では、2025年までにおよそ10%の公共インフラなどの収入が。

○議長（中村 実君）

東野議員、時間がオーバーしました。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

11時15分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時04分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、笠原幸江議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。〔11番 笠原幸江君登壇〕

○11番（笠原幸江君）

清政クラブ、笠原幸江です。

事前に提出いたしました通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、新型コロナウイルス感染症支援策と経済への影響と今後について。

緊急事態宣言が解除され、国や県の方針を踏まえ解除されたとはいえ、全ての市民にとって元の暮らしに戻るというわけではなく、「新しい生活様式」が求められました。当市では5月に「新型コロナウイルスに負けないために」という、正しく知って自分の身を守る方法が漫画を取り入れ広報されています。大変分かりやすく、よいことであると感心しています。

国の支援策、県での支援策を前提に当市の支援策が打ち出されてきています。以下の項目について伺います。

(1) 様々な支援策が取り組まれています。以下について市民からの苦情や問題等は出ていますか伺います。

- ① 特別定額給付金。
- ② 緊急事業継続給付金。
- ③ 雇用調整助成金申請費補助金。
- ④ 感染拡大防止対策補助金と休業協力金。
- ⑤ 全戸配布のマスク配布。

(2) 今後の第2波、第3波に備えた対策の強化について。

新型コロナウイルス感染症が完全に終息していません。PCR検査等の検査機能強化や相談窓口の強化等、万全な準備をされていますか伺います。

(3) 公共料金の減免等や財源確保のための当市の今後の対応について。

経済状況の先行きが見えない、大変厳しい中での令和2年度のスタートとなりました。新型コロナウイルスの影響で深刻な財源不足となることは必至です。今後はグローバル社会からローカル社会への変換を余儀なくされると予測されます。市民生活に支障のないよう事業の見直しに着手する必要があると考えます。

- ① 財政調整基金の現在の残高と今後の用途について伺います。
- ② 公共料金の延納や減免等の有無について伺います。
- ③ 先行き不透明な経済の悪化に伴い、当市としての積極的な企業誘致を進める必要があると思いますが、いかがか伺います。

2、地域おこし協力隊・集落支援員について。

平成21年3月31日制定の地域おこし協力隊推進要綱によると、「人口減少や高齢化等の進行

が著しい地方において、地域力の維持・強化を図るためには、担い手となる人材の確保が特に重要な課題となっている。また、地域外の人材を積極的に誘致し、定住・定着を図ることは、地域力の維持強化にも資する取組であり、有効な方策と考えられる」と要綱にうたわれております。当市における現状と課題と今後について以下の項目を伺います。

(1) 地域おこし協力隊について。

- ① 地域おこし協力隊は現在3名ですが、その方たちの在籍年数は何年で、配置先はどこの地域となっていますか伺います。
- ② 地域おこし協力隊の活動の主な内容はどのように周知し、委嘱されていますか伺います。
- ③ 在籍年数終了後の定住・移住を希望された協力隊員は何名で、生活支援や就職支援の実績件数はどうか伺います。
- ④ 定住のための財政支援は、どのようになっていますか伺います。
- ⑤ 今後、地域おこし協力隊を継続する考えはありますか伺います。

(2) 集落支援員について。

集落支援員の制度が平成20年度に創設されて13年目に入りました。当市では、10名の集落支援員が活動され努力されています。その役割について伺います。

- ① 地域をサポートすることによって、地域住民が自主的に動き出した事例があれば紹介していただきたい。
- ② 支援員が提案する財源について伺います。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

笠原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、申請書の発生時期や振込みまでの日数などについて苦情がありました。

2つ目から4つ目につきましては、情報発信の仕方についてご意見を頂いたものの、苦情や問題となるものはないと認識いたしております。

5つ目につきましては、配布方法について若干のご意見を頂きましたが、多くの市民の皆様から大変喜んでいただいたと認識いたしております。

2点目につきましては、県が中心となり、医師会等の関係者と感染対策の拡充を進めております。

3点目の1つ目につきましては、財政調整基金の令和2年度1号補正後の残高見込みは12億4,500万円で、使途につきましては、予期しない収入減や支出増加に対応するため使用してまいります。

2つ目につきましては、既にガス・水道・下水道料金の支払いの猶予を行っており、現在、水道・下水道料金について減免を検討いたしております。

3つ目につきましては、既存企業の支援が最優先であります。新型コロナウイルス感染症の拡大により、2地域拠点の考え方が企業や個人においても普及するものと予測しており、引き続き対

応してまいります。

2番目の1点目の1つ目につきましては、1人は3年目でなりわいネットワークコーディネーターを務め、2人は2年目で上南地区と駅北地域に配置いたしております。

2つ目につきましては、ホームページ等を通じて周知いたしております。

3つ目と4つ目につきましては、これまで退任した4名のうち、定住者は1名であり、定住に向けて相談に乗ってきたほか、市内で起業する際の設備費等の補助制度を利用いたしております。

5つ目につきましては、人口減少や高齢化等により、地域力の維持・強化を図る人材の確保が必要なことから、今後も協力隊制度を活用してまいります。

2点目の1つ目につきましては、地域と一体となって高齢者等のサロンを開催しているほか、地域の情報発信など地域づくり活動を支援いたしております。

2つ目につきましては、集落支援員の活動は、地域のサポートが主であり、活動内容に応じて予算措置を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

2回目の質問をさせていただきます。

まず、2回目の質問の前に冒頭でもお話ししました「新型コロナウイルスに負けないために」、これですね。これが全戸配布されております。大変子供でも分かりやすいし、家族で話し合いができるのに大変、高齢者のところにお伺いするときもこれ持ってって、こういうものが出てますよということで、会話の中で話がこう、気をつけようねということをやっております。

ところが、この最初の冒頭の糸魚川市の上のところ新型コロナウイルスに負けないための括弧のところCOVID-19となっておりますが、これはどのように理解して、ここに入れたのか、ちょっとそこをまず確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

作成のほうは、対策本部のほうで作成させていただきましたが、COVID-19につきましては、新型コロナの名称ということで記載させていただいたと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

私もネットで、意図的にこんないいのが出てるし、いいこと載ってるのでどうということかなと。

皆さんにもお話しするのに、これ何と言われたときに困るものですから調べさせていただいたら、これ正式には新型コロナウイルス感染症というふうにして、これを理解するようにネットでは載ってるんですよ。アウトブレイクとかという言葉でも説明される方もいらっしゃる。あえてここへ、私載せる必要なかったんじゃないかと、ちょっと余計なことなんですけれども、私はこれ何なのって、ここから入っていっちゃうととっても、若い方はすぐ入ってくるけれども、会話の中で話していくときちょっといかがかなと思いましたので、ちょっと冒頭に説明をさせた。大変すばらしくて、カラー刷りで分かりやすく、本当にこういうふうにして折って歩いておりますので、ちょっと紹介させていただきました。

それは、1番目の新型コロナウイルス感染症対策支援と経済の影響なんですけれども、様々な取組、それから多くの議員の皆さんが、このコロナ対策について質問させていただいてます。それから6月12日の日も詳細について佐藤議員が質問された中でもちょっと重複するのもあるかもしれませんので、よろしくお願いします。

まず、特別定額給付金なんですけれども、大変市民にとっては1つの会話の中の、それから手続する上でちょっと教えてほしいということで、私も高齢者のおうちへ伺ったり、お二人高齢者でどういうふうに書いたらいいのかということで、結構忙しく飛び回って説明させていただいた経緯ありますが、問題はなかったということなんですけれども。いかがでしょうか、特別給付金について実際に、まだどれぐらい、佐藤議員のとき1,000世帯ぐらいはまだ、でもこれ8月17日なのでこれからという方もいらっしゃるだろうし、これから手続するのにちょっと戸惑ってる方もいらっしゃるかもしれないですけれども、もう一度、今後どういうふうな手順で処理をされていくか確認させていただきたいんです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

6月11日現在ということで、先般、先週金曜日の佐藤議員のときにもお答えさせていただいたとおり1万6,319件、世帯の方が申請済みということで、全体で1万7,359世帯が対象ということで約、あと1,000ぐらいというお話をさせていただきました。金曜日、土日とまた100ぐらい来ておりますので、1,000を切ってる状況になっております。今後、その申請状況を見極めながら、広報あるいは個別に、まだ出し忘れてないですかというようなご案内を差し上げたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

当市は、新型というかコロナウイルスが発生したときに、県内でもいち早く対策本部が立ち上がりました。それが立ち上がったという話聞いたとき、私は、これは少し長引くんじゃないかなといったところが私の感想でした。市が対策本部を立ち上げて、本当に何回も会議をされる様子を随時、全員協議会でもお話しさせていただいたときに、本当に大変なことが起きるなと思っておりました。

ところが、特別定額給付金が国から出るというお話になったときに、いろんな報道関係でテロップだとか様々なところで出ると、実は県内で糸魚川市は29番目の交付だったんですよ、お通知が出るのが。市町村30あるうちの29番目、それが少し市民の方にとっては、何で遅いのって、みんな早いじゃない。一番早いところで5月7日、えっていう感じで、対策本部もあるのに何で遅いのだろうねということだったんですが、これ何かシステムの何か住民基本台帳を取り出すときに何かスローというか、瞬時に出てくるような機械を使ってるのかどうか、そこちょっと確認したいんですけど、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

今回の定額給付金の申請書につきましては、住民基本台帳から対象者を抽出して、それで一枚一枚、1世帯ごとの申請書にして発送するという作業を行いました。その中で、申請書を印刷する部分について、やはり外部のほうへ委託をさせていただきました。その関係で少し他の市町村よりも、県内の他の市町村よりも若干遅くなって、当市の場合については5月18日の日に郵便局のほうへお渡しできるようになって、20日の日から3日間かけて全世帯のほうへ配付していただいたというような状況でございます。これに関しては、委託先の状況で、ある程度日数がかかったというものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

人口的なものではないんですよ。データを見ると十日町だとか見附、新発田、柏崎、五泉、当市と同じような人口の割合から見ると、そういう人たちがとっても早く処理されてる。それって何なんだろうとって分析というかデータを調べていったら、妙高市さんとか上越市さんが一番最後なんですよ。上越、妙高、糸魚川、これ同じシステム使ってるのかなって、何か考え方をそういうふうにと落としていったんですけども、何ら問題はなかったということではよろしいでしょうか。もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

それぞれほかの市町村につきましても、どこまでを自分たち市町村の中で事務を処理して、どこまでを外部に委託するかという部分については、それぞれの市町村の人口なり、世帯数なり、またそれぞれの市町村の体制なりで違ってくるものというふうには思っております。結果として、先ほど申し上げたように当市の場合、5月18日の発送ということで、県内の他の市町村よりも若干遅い申請書の郵送ということになりましたけども、申請については5月中には7割5分の皆さんの方から申請いただいたということで、そういう面では特に問題はなかったというふうには感じてお

ります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

理解いたしました。これからは、皆さんが大変なご苦勞、まだ申請されてない、それから給付金をまだ手元に頂いてない人たちのために、これがまたさらにご苦勞がある作業に入ってくるのではないかなと思っております。ぜひ希望される全ての人々に、その手続が終わりますようにご努力を続けていただきたいなと思っております。どうしてもいろんな状態で自分の手に届かない方も出てくるかもしれませんが、その数をなるべく少なく少なくするような、本当にこれからは行政の皆さん、またさらに大変な時期だと思いますので、本当によろしくお願いいたしたいと思います。本当に希望される全ての方たちによろしくお願いいたします。

それから、次の緊急事業継続給付金、これは先ほど東野議員がご質問されて、皆さんが大変喜んで何とかしてほしいということで、市のほうへお願いして、4月20日の定例記者会見で、これは財政調整基金を利用して出動されたということも全員協議会で聞いておりますけれども。これについても皆さんは喜んでいらっしゃるということで問題点は出ておりませんか、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

緊急事業継続給付金につきましては、国の持続化給付金の支給までがかなり時間がかかるのではないかとということで、それまでの間に新規創業者を含めて早急に支給をさせていただいたところまでございまして、特に問題はないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうしますと緊急事業継続給付金については、何社ぐらいの方がご利用されたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

6月10日現在の数字になりますが、342件で、交付額が約5,850万円でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

市独自の支援策でありました。今後、第2波、第3波なんかが来たときに、こういうことはまた考えておられるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今後の対応といたしましては、また、国・県、また市の経済対策の状況を見ながら総合的に判断していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

それでは、③なんですけども雇用調整助成金申請補助金についてなんですけど、これ少し確認したいんですけども、この制度は雇用保険に加入されてる人が対象で、加入されていない人の取扱いというのはどのようになっているのか、そこのちょっと確認をしたいんですけども。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

通常ですと雇用調整助成金につきましては、今言われた雇用保険を掛けている方が対象になっていたところではありますが、このコロナの緊急対策ということで、要件が拡充されまして、雇用保険を掛けていない方につきましても緊急雇用安定助成金ということで制度化されておりますので、掛けていない方も、この助成金は利用できることとなっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうしますと申請するための労務士さんのほうに委託料として、手続がちょっと大変なので社会保険労務士さんのほうにお願いするという作業が出てきますけれども、雇用保険に入ってなくてもその事務所へお訪ねして、手続はしていただけるものなのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今回の雇用調整助成金につきましては、これの手続をする場合は、自社で、ご自分で申請を行うか、または社会保険労務士に委託をする必要があります。社会保険労務士さんにつきましては、企業の皆さんからのご要望といたしますか、オーダーによりまして資料を作成して手続をされるものがございますので、その成果報酬で支給された額のおよそ1割ぐらいが、社会保険労務士さんへの払

う費用というふうに聞いておりますので、その社会保険労務士さんにかかる費用の2分の1、また10万円が限度ということで、この補助金を支給してるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

この申請時期が間違っていたら訂正していただければ、4月27日から12月28日までというふうに私理解してるんですけども、その期間でご相談というのは、企業支援室とか糸魚川のほうに相談されても大丈夫なんでしょうか。社会保険労務士さんのほうへ行かなくても、実はこうこうこういうわけなんだけどどうしたらいいんでしょうかという質問が来たときに、それは受けていただけるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

この雇用調整助成金につきましては、厚生労働省の補助事業というか制度でありまして、基本的にはハローワーク糸魚川で手続きされることとなりますが、今言われてましたように商工観光課にお問合せになっても結構ですし、また、商工会議所、商工会にお問合せになっても、その場合にはその方の状況によって社会保険労務士さんを紹介されたり、またハローワーク糸魚川のほうへ紹介するということになろうかとは思いますが、いずれにいたしましても市並びに商工会議所、商工会等にご相談いただければ、適切に対応したいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

④のところに入ります。

感染拡大防止対策補助金と防止休業協力金なんですけれども、これについては、この利用と、ここについては何か問題とか、どんなことしたらいいですかというような、そういうものは出ておりませんかでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

この感染防止対策補助金につきましても、特に問題は出ておりませんが、本市といたしましては、県よりも早く、一刻も早くということで制度を出しまして、それが10分の9、上限10万円ということであったわけなんですけども、その後、約一月後、新潟県から同じような制度であります、100分の100、100%補助で5万円から20万円という補助制度が出て来ておりますので、本市といたしましてもお問合せいただいた際には、こういう県の補助金もありますよということも

合わせてご案内して、有利なようにお使いいただきたいということで対応を取っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

この感染拡大防止対策補助金と休業協力金なんですけど、これあれですかね、この感染拡大防止対策補助金というのは、休業協力金を受けた事業者が対象者、そういうことであるのかなというように、私のほうの理解が少しできてないんですけども。休業協力金を受けた事業者でないと、この感染拡大防止対策の補助金、要するに消毒だとか間仕切りをするだとか、お店のこういう感染拡大を防止するための補助金を、休業協力金を得た人じゃないと受けられないというふうに私理解しているんですけど、そういう理解でよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおりでありまして、この制度の概要につきましては、ゴールデンウィーク期間中に市の協力依頼に対しまして、ご協力をいただいた事業者が対象になっておりまして、5月7日からの再開に向けて、何らかの感染拡大防止の対策をやられた経費につきまして、補助金を支出するという枠組みになっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

⑤のところに入ります。

マスクの全戸配布、今日、私このマスクは市のほうから配付されたマスクでございます。夏になるとどうしようかなという、暑さを感じております。話しするだけでも汗が。

それから、12日の日に国からマスクが配布されてきました。いろいろと問題のあったマスクでございますけれども、大変丁寧に皆様へということの新しい生活様式、ここに出てきました。実践例ということで分かりやすく出てます。

それで、糸魚川市のマスクを配布される時、箱のままぽつんと送られて、各自治会の皆さん大変だったんだろうなと思うんですけど。実は頂いた後、ちょっとご婦人の人たちにちょっと印象をお聞きしましたら、やはり市長、ワンチームで乗り切った糸魚川市民に糸魚川市長、お名前を入れて全部箱に少し入れていただいたら、とっても心が通じたんだけどなというお話を少し収集してきましたんですけど、いかがですか。そのまま箱でぽんと来たもんですから、皆さん何か入って、何かコメントが入ってるかなというふうに期待されたそうです。何かワンチームでまた乗り切りましょうとかっていう糸魚川市、米田 徹と入れてもいいんですけども、そこは今後のこともあるので、今後どうされます。もしそういうことがあったら、ぜひお願いしたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、提案いただきまして、ああそうだなというのを感じました。

しかし、まずは一番最初にどれだけでも早く市民の皆様にお渡ししたいということで、またそして、それにまた金もかかる、市民全域という形になると数も多いわけでございますので金もかかることをごさいますして、これからの中であまり金のかからないように、そしてまた、市の考え方も理解していただけるような方法を取っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

市長、お金かけるときはかけていいんですよ。だってみんな頑張ったんだもん。本当によく頑張りました、市民は。忍耐と、それから自分たちの知識、それから連携、で、糸魚川市には感染者が1人もいなかった。その後にマスクが来ました。でも一時、本当にマスクが足らなくて、私も手作りをしたり、孫のところに手作りしたのを送ったりとか、ばたばたしてたんですけれども。やはり国が出したこんなに立派なものでもなくとも、糸魚川市からですよというのが欲しかった。先ほど東野議員のところにも、悪質な送りつけでマスクが送られてきたという話がありましたけども、安心でありますので、今後ぜひお金かけるときはかけていただいて、やっていただきたいんですけど、市長いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その辺はやはり適宜対応していきたいと思っておりますので、時間がかかる部分についてはご容赦いただきたい。急ぐときには急ぐ対応で、緊急を要するというところで、広報等でその辺を知らせるということもございますので、いろいろ工夫していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

(2)に入ります。それこそ第2波、第3波に備えた対策の強化なんですけれども、先ほども答弁いただきましたが、いま一度、必ずやってくると市民の皆様は心しております。また、終息したわけではありませんので、必ず来るよね、やだね、怖いねって恐怖心も感じる。いかがでしょうか、万全でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、笠原議員からお話がありましたように現在は落ち着いておりますけども、第2波、第3波というのは間違いなく来るんだろうという前提の下で、今対策を進めなければならないというふうに考えております。具体的には、新しい生活様式の定着であったり、また、医療・検査体制の強化だったというところでありまして、検査センターの設置につきましては、その一環というふうに考えております。引き続き、医師会、それから保健所、糸魚川総合病院などと連携しまして市民が安心できる医療・検査体制について整えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

積極的に糸魚川市はどうしなければいけないかというものをしっかりとつかまえて、県や国へ要望するべきものはしっかり要望していただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

（3）の公共料金の減免なんですけど、先ほど市長から答弁いただきました。大変これからもガス・水道、減免をやっていくということなんですけど、これ一般市民も対象になりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

お答えいたします。

減免の内容については、現在検討中ではありますが、今後の地域経済の状況だとか市民生活の困窮状況について、関係各課と情報を共有して、連携を図りながら少しでも長く安心して、事業の計画だとか生活の維持ができるように、事業者あるいは一般の個人の方を対象として検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足してお答えいたします。

減免につきましては、ガス・水道ではなくて、水道・下水道の料金について減免を検討しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

ありがとうございます。大変先行きの見えない、それからなかなか収入も得ない、先ほどから飲食店、宿泊、旅行業者、本当様々な人たちが今どうするやということであれしておりますので、ぜひその方向で進めていただければありがたいです。

①なんですけど、財政調整基金、先ほど金額お聞きしました。今後も財政調整基金を当座の不足の状態のときは、お使いになる予定になっておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

財政調整基金の目的自体が、先ほど市長申しました予期しない収入源や支出増加ということで対応するものでもありますし、また、市町村の小さい自治体といいますか市町村になりますと、年間を通して、年度ごとに収入支出というのが変動がございますので、そちらのほうの調整という形にも財政調整基金、活用させていただいております。また、今まさにコロナのこの状況が、コロナ対応ということで今動いている状況でございますことから、今後につきましても全体の収支を見ながら、活用のほうをしてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

財政調整基金、取崩し始まって、今ちょうど12億4,500万、それで、当市の人口の割合でいくと、この金額では先行き不安であります。前にも一度お聞きしたことがあります、実際に当市の人口の割合で、どれぐらいの財政調整基金があつたら、不測の事態が起きたときにその対応ができるかというふうに予測をされておると思いますが、お幾らでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

この財政調整基金なんですが、総務省のほうでは標準財政規模の大体10%程度ということで、目安とされております。そういたしますと令和元年度の標準財政規模、糸魚川市は約157億程度になりますので、仮に10%といたしますと15億程度と見込まれます。今12億5,000万ということで、現在でいきますと元年の標準財政規模を使うしか今現在ないんですが、大体8%ぐらいとなつることから、どれが適正かというのものあるんですが、財政調整基金だけでいきますとそれぐらいになるんですけども、ただほかにも特定目的基金ということで70億ぐらいですか、持っておりますので、そういったものも全体を見ながら対応してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

大変厳しい状態であります。

③先行き不透明な経済の悪化に伴い、当市での積極的な企業誘致を進める必要があると思うんですけれども、それらのことは今のところ頭の中に入れておりませんか。大変厳しい財政状況であります。当市には、まだ遊休地ありますし、今から都会に出ていった人たち、グローバルって言いましたけれども、教育はグローバルであっても企業は今ローカル、地方に戻ってこなければいけない状態です。ぜひ企業誘致を進めていっていただきたい。今、今日、明日でなくて今からそういう計画を、プロジェクトをつくって、糸魚川市の財政を豊かにするための施策を取り計らっていただきたいんですけど、そういう考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおりこれまでの企業誘致といいますと、企業団地を整備して、そこに製造業等を誘致して雇用を確保するという状況であります。ただ現在は、工場を誘致しても働く人がそんなに必要がないとか、いろんな状況の変化もしてきておりますし、また、いろんな状況が出てきておりますけども製造業は当市の基幹的な産業で、大変な重要なものがございますので、引き続き取組を進める必要があると考えております。

ただ、今回、コロナウイルス感染症の拡大によりまして、リモートでの働き方という考え方が一気に拡大してきておりまして、首都圏に生活の拠点を置く必要性があるのかどうかというのも含めて、いろいろ議論されてきておるところでありますので、また新しい形の企業誘致、移住定住も関係してきますけども、また新たな考え方で取り組んでいく必要があるというふうに考えております。

○議長（中村 実君）

笠原議員の質問の途中ではありますが、昼食時限のため、13時まで暫時休憩といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

それでは、2つ目の質問に入ります。

地域おこし協力隊と集落支援員についてであります。まず先ほど説明を頂いたんですが、①の上南地区に1人と、それから後の2名はどちらのほうに配置になってますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

後の2人でございますが、お一人は駅北地域でお一人、それとあともう一人は、なりわいネットワークの事務局というところで勤務をしていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうしますとこの方たちは、今何年目に入るんですかね。3年というお約束で入られるんですけども、上南地区の1名の方は、今、今年何年目に入るんですか。それから駅北の方は、何年目に入るの。なりわいネットワークの事務局のほうに1名ということなので、その方たちは今、何年目に入っておるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

なりわいネットワークの方が、今年3年目に入ります。それで上南地区の方につきましては、今年から2年目、それと大火復興の駅北エリアについては、今年から2年目になります。3年、2年、2年という形になります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

要綱にも書いてあるんですけども1年から3年の年数ということで、その期間を過ぎると、例えば定住していただけたらとか。それから、あるいは起業していただけたらとか、そういう目的の方た

ちだとは私は思ってるんですけども、市外から糸魚川へそういう形で入ってこられた3名の方というのは、そういうお願いで来ていらっしゃる。糸魚川市内在住の方じゃないですよ。市外から入ってきて、自分の持っているノウハウを私、地域おこしといいますけれども、起こすんじゃなくて地域を残すための隊員さんかなというふうにならざるを得ないんですけども、そういう形で入ってきていることは間違いないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

まず1点目のどちらかということでございますけれども、国の地域おこし協力隊の要綱から行きますが、基本的には三大首都圏。日本の三大首都圏と、あと都市地域というところから来るということでございますので、市内の方は協力隊というわけでございません。あくまでも市外からということになります。

それともう一つが、やっぱりこちらで応募をするときの、こういうことをお願いしたいという要件を定めてるんですね。その要件に定めて、まずは応募をされて、3年間じっくりなりわいといいますか業務をして、やりながら最終的には自立して起業するのか、もしくはどちらかの就職なのか、そういったやっぱり自分の生き方、考え方で、こちらのほうへ定着していただくということで進めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうするとちょっと③にかかってくるんですけども、今2年の方と1年の方というふうになってますけれども、実際に今まで地域おこし協力隊として入ってきて、糸魚川に定住された方というのは、3番のところなんですが、何名ぐらいいらっしゃるもんなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

任期を終えられて、糸魚川へ定住をされたという方が、先ほど市長答弁にありましたけれども1名という形になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうしますと、その1名の方には生活支援とか就職支援、あるいは起業をやられるときの支援と

というのは、実際取り組んで、過去の話になるかもしれませんが頑張っておられるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

総務省では、地域おこし協力隊の要綱、議員も多分ご覧になっているというふうに思いますが、その要綱の中に定住に向けての生活支援、就職支援、それとあと、その後の起業とかそういったところの支援ということになっておりますが、今1名の方につきましては、ちょうど任期中につきましては、こちらのほうで住居ですとかいろいろな備品の整備をしておりました。定住、任期が終わった後につきましては、特に生活の支援という面では住まいの相談に乗ったりとか、あとこの方は起業されてる方なので、実際に任期中に何とか自分のなりわいで、手でやっていきたいということがありましたので、そこら辺のところを主に進めまして、この国の要綱という起業の補助金というもので何とかつないで自立していただきたいという支援を行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうしますと今まで取り組んできたけれども、実際の実績というのはこの方、令和、今2年になりますけれども、今までで1名の方だけが糸魚川市に住んでいただけたという理解でよろしいでしょうか。ほかの方は、何らかの形で実際に地域おこし協力隊としてやってきたけれども、実績が出なかったという理解で、出なかった理由のほうをちょっと聞かせていただきたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

任期が終わって、なかなか定着というのは難しいなというふうに思っておりますが、なかなか残念ながら糸魚川市を去った方につきましては、ご自分の出身のところでの就職、いろんな家庭の事情もあったというふうに聞いてますので、そういったご自分のところに行かれた方、その中で1つのケースとしては、起業されたんですが、たまたま勤務地が糸魚川市ではなくて、ちょっとよそのところでの起業になってしまったというところになっております。いずれにしてもやっぱりここへおいでいただいて、定着していただくことは一番大事なんですけど、やっぱりしっかり最初のときにこの地で何をやりたいのか、そういったところのやりたいところが実現できるのか、そういったところをしっかりとつなげ合わせるコーディネートをすることによって定着をしていかなきゃいけないんですけど、今のところお一人だけの実績というふうになっておりますので、これからは引き続きそういったところの支援というのをしっかりとやっていかなきゃいけないなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そこをしっかりと分析して、糸魚川市を嫌いになったわけではないと思うので、皆さんおいでになると自然が豊かだと、山があり、海があり、川がありという話に皆さん選んでくださると思うんですけども、その過去の何名ぐらい来てて、それで今分析をしっかりと、今一生懸命頑張ってる人たちの結果が出てくるように、当然分析はしていらっしゃると思うんですけどもいかがですか。特徴的なのは一番何なのか、それを聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

やはり応募される方は、この地で、糸魚川で何をしたいのかというところがうまくマッチングさせるというのが一番大事だというふうに思っております。その中でしっかりこの土地で、いろいろ3年間かけて従事してくるわけでありますので、その結果がやっぱりしっかり結びついて、自分の業として、もしくは軽業でも構わないんですが、自分のやりたいことがきちっとできる、活躍できる、そういうところの分析をしっかりとつなぎ合わせることによって、定着に進めていくのではないのかなというところを平成27年度から事業を進めてますけども、分析しておりますし、その点を重視しながらこの制度は活用していかなきゃいけないなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

せっかく糸魚川市に入ってきて、それから住んで、定住したいという希望のある、しかもコーディネーターできる力のある人材でありますので、しっかりと分析して対応していただきたいと思います。

（2）の集落支援員についてなんですけれども12年目になりました。10名ということなんですけれども、これの皆さんどちらのほうに配属になっているか、まず聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

集落支援員は、現在10名という形になっております。地区で申し上げますが、磯部地区、小泊、島道に地区にお一人、それから上南、それから下早川、上早川、西海、根知、小滝、あとは市振、それから大火復興の応援、それとあと、いえかつ糸魚川ネットワークの支援という形で今10名の方が集落支援員という形で配置したいしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうしましたら、①のどこなんですけれども、地域に入って一生懸命努力されている10名の方たちであります。自主的に何かこう地域の住民の方たちと動き出した事例、上南の方がここにも配属になってますね。集落支援員と地域おこし、地域残し協力隊の方とお二人がお見えになるんですけれども、何か自主的に動かした事例あったら紹介してください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

まずもって、第1回目の市長答弁のほうでありました集落支援員、支援員でございますので前面に出て引っ張るといふところじゃなくて、あくまでも地域のやりたいことをうまくサポートしていくといふところが、一番のミッションだといふふうに思っております。

上南地区でいきますと、もう地域づくりプランというのを早い段階でつくっておりました。特に助け合いの部分ですとか、農産物の販売だとか、地域活性化に向けたイベントの展開とか、そういったものを前面に、地域住民の皆さんで企画をして行っておるところであります。特に支援員、協力隊につきましては、地域活性化ということで農家キッチンですか、そういった農家レストランとかもやってる、稼ぐ地域といふところもございますので、そういったところの支援といふところになっております。そんなところでの販売の促進ですとか、情報の発信と、そういった陰の部分でしっかり支えて、地区が輝くような取組を進めているといふところでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

県内の事例を見ますと、集落支援員さんという人たちが全員が集まるわけではないと思うんですけれども、県のほうでアンケートを取ったりとか、あとお勉強会とかそういうことをやられてるといふのが記述に載ってるんですが、実際に10名の方たちは、一堂に集まって意見交換だとか情報交換だとか、そういうことは実際にやられてるもんなんですか。アンケートを見ると、いい事例は地域の皆さんが話し合いが活発化になったといふことなんですけれども、逆にご苦労も多いという話は、アンケートの中から読み取れるんですが、糸魚川はどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

集落支援員の皆さんについては、行政のうちのスタッフも含めて2カ月に1回なんですけど、定例会という形で10名全て集まって、協力隊も集まってですけども、地域の情報を共有する。いろんなやっぱり解決策というのは、各地域によって違います。問題も違ってまいります。そういうところをしっかりと解決して、どういう事例でここを乗り切ったかとか、ここは今うちは困っているぞというものは出てくるんですね。そういうところを情報の共有をして、何とかいい糸口を見つけられないか、そういった話合いは、会合というのもしっかりやっております。協力隊や支援員だけじゃなくて、職員もしっかり入って、その中で話を聞いてきます。県も今、全県の話議員から言われましたが、県での研修会とかありますので、そういったところは積極的に参加をして、県内の集落支援員の皆さんとの意見交換、やっぱりいろんな課題が違ってまいります。そういったところの情報収集は行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうしますと支援員さんの提案で、私この2番のところ書いたんですけども、何かやりたいなといったときに財源が先に立ってくると、お金がないからできませんということはありませんね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

集落支援のほうにつきましても総務省のほうで要綱をつくっておりますし、財源もしっかりありますので、集落支援員さんがやりたいという企画については、諸費という形で予算を持っておりますし、また、支援員さんにばかりおんぶにだっこじゃ駄目なんですよ。やっぱり地域の皆さんも俺たちはこれをやるんだ、私たちはこれをやるんだ、ここの経費は私たちが負担する、支援員さんはここを頼みたいと、そういったところの役割分担をする中でやっておりますし、また、支援員さんの要望する経費、またどういった品物が要るとかとか、そういったところは予算要求時にも聞き取りをしてまいりますので、財源的には特別交付税も含めて十分に対応しているというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうしましたら、もう財源があるという課長の話でございますので、まず、頑張ってる皆さんを応援する意味でも、何かこの県内の活動事例にも載ってるのを見ると頑張ってるな。でもここはメリット、デメリットというふうな形なんだけど、この10名の方たち頑張ってるこういうものを、市民の皆さんにある程度見える形にするための何か策と申しますか、そういうことをやってるかどうかちょっと確認したいですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

支援員さん非常に地域を小まめに回っていただいて、地域の中ではやはり私が行ってもよくやってくれてるというのが聞こえます。

ただ、それだけでは駄目なので、何とかやっぱり形に表して、ホームページとか、あとSNSを使ったフェイスブックとか、そういった形での情報発信はしてもらってるんですけども、やっぱり支援員さんというのは支援ですので、表に出るんじゃないくて、やっぱり自分の活動というよりも地域をいかに発信させていくか、地域をどう活性化させていくのか、地域がどう動くかというのが、一番の腕の見せどころになりますし、それは私たち職員もそうなんですけども、前面的にちょっと表に出るというのは、また今後ちょっとホームページとか活動も紹介するコーナーも考えていきたいなというふうに思いますので、またご提言は受け止めさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

先ほどから支援員さん、支援員さんと、支援員さんという名前は使ってますけれども、地域の皆さんにとっては大切な相談相手であります。そういう情報収集する中で地域をどういうふうに残していこうかとやってるんだから、あまり支援員さんと、支援員さんだからどうこうじゃなくて一緒にやってくということやっていただきたい。

市長どうですか、市長が議員時代からコミュニティの専門であります。今の地域の皆さんと一緒にやる大切なところを1つ最後に聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほど課長がお答えいたしているように地域をやはり活発化、元気にさせるための1つの役目という形が必要でございます。やはり地域をまとめ、そして提案も当然あるでしょう。そういうものをやはりしっかり地域に落として、その支援員がいなくなったら元気がなくなったでは困るわけがありますので、そういったところになってくような指導をしていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

笠原議員の質問が終わりました。

13時30分まで暫時休憩といたします。

〈午後1時20分 休憩〉

〈午後1時30分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。〔15番 田中立一君登壇〕

○15番（田中立一君）

市民ネット21、田中です。

発言通告に基づいて一般質問を行います。

1、新型コロナウイルスによる影響と対応について。

(1) 市内経済への影響と対策について。

- ① 業績悪化などによる市内事業所での雇用環境への影響をどのように把握し、支援対策を考えているか伺います。
- ② 業績悪化している市内事業所が負担する家賃・リース料など、固定費への助成についての考えを伺います。
- ③ 一次産業への影響をどのように把握し、支援対策を考えているか伺います。
- ④ 就活状況への影響をどのように把握しているか伺います。

(2) 練習や舞台発表、公演ができないなど活動が制限され、地域の文化力低下が懸念されるが、文化への影響をどのように把握し、今後の対応を図るか考えを伺います。

(3) テレワークの普及と推進への支援について。

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から「新しい生活様式」を推奨し、働き方としては、テレワークやローテーションによる勤務、オンラインでの会議などへの変容が求められています。

また、BCP対策の有効な手段としてもテレワークの活用は重要性を持つことから、次の点について伺います。

- ① 緊急事態宣言中の市内事業所のテレワークの取組状況と今後の推進への支援について。
  - ② 新型コロナウイルス感染拡大を機に、東京など都会から地方へ働く場を移す考えを持つ企業や個人についての把握と、積極的な受入れを図る考えについて。
- (4) アルバイト等の社会経済活動が制限された、出身大学生等への学費・生活費の一部を支援する考えについて伺います。